

St. Luke's International University Repository

2018年度 一般社団法人聖路加看護学会 定時評議員会報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/13317

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



— 学会記事 —

2018年度 一般社団法人聖路加看護学会 定時評議員会報告

日時：2018年6月8日（金）18：00～19：45

場所：聖路加国際大学2号館1階 ほるかルーム

出席：

評議員：松谷美和子（理事長）、中村めぐみ（理事）、吉川久美子（理事）、奥裕美（理事）、野末聖香（第23回学術大会長）亀井智子、川口千鶴、酒井禎子、水戸優子、吉田千文

委任状：22通

欠席：1人

指名理事：小林京子

選挙管理委員：西野理英

議事録作成者：松谷美和子理事長

議題

1. 理事長挨拶

本日が理事長としての1期2年間の最終日である。一般社団法人としての社会的責任を十分に果たせるよう努力してきた。2年間、事業の運営にご協力いただいたことに感謝している旨が伝えられた。

2. 出席者数の確認：定款第21条-2

評議員33人中、出席10人、委任状22人により合計32人の参加が認められた。評議員会の成立のために必要な過半数（16人）を超えているため、本会が開催されることが確認された。

3. 議事録署名人の指名：定款第24条-2

吉田評議員、水戸評議員が指名され、議事録署名人に任命された。

4. 議事

1) 2017年度事業報告：資料1

(1) 理事会報告

資料1に基づき報告がされた。

2017年度は定時・臨時併せて8回開催した。計画された学会事業のほか、COIに関する指針作りなどを行った。入会金の未納率が高いため、予算の削減に極限まで努めたこと、会費納入率を上げるためにも会員にメリットを感じてもらえるような事業を考えること、会員相互の交流と学会からの情報提供のためのメーリングリストの作成などについて検討したことが報告された。

(2) 定時評議員会報告

資料1に基づき2017年6月9日に実施した定時評議員会について報告された。

(3) 庶務

資料1に基づき報告された。

(4) 会計報告

資料1に基づき報告された。

2017年度の会費納入率67.1%は、例年並みであることが報告された。例年納入率は70%以下であり、予算の大幅な削減が必要であったこと、会費納入率の向上のために努力していること（学会誌の内容の充実の検討、メーリングリストの作成の検討）などが報告された。

(5) 学会誌編集委員会

資料1に基づき報告された。

(6) ニュースレター委員会

資料1に基づき報告された。

(7) 学術交流委員会

資料1に基づき報告された。

学術助成金については、2017年度の応募が1件のみであった。応募者が少ないことの理由に、申請書の内容が複雑で申請者の負担が大きいる可能性がある指摘され、書式の改定を検討している旨報告された。

(8) 高度実践看護開発検討委員会

資料1に基づき報告された。

診療報酬・介護報酬の改定に向けての準備については、委員会として研究を実施することが検討されたことと報告された。「検討後実施したのか」という質問に対し、検討のみで実施には至っていない旨報告された。

以上の2017年度の事業について、承認された。

2) 2017年度決算および監査：資料2-①②

2017年度の財産は、前年度までより減らすことなく推移した。会費収入が前年度よりも増加しているのは、2017年度以前の未納分の会費（複数年分）が督促により納入されたことが主な理由であること、印刷製本費が大きく削減されたのは、学会誌の紙媒体での発行を減らした（年2回から年1回へ）ことが主な理由であることなどが報告された。

監査の結果、会計および業務に法令に違反する重大な事実はないことが認められた旨報告され承認された。

3) 2018年度事業計画および予算：資料3-①②

2018年度事業計画および予算について説明があり、承認された。

予算については、会費納入率80%で作成しているため、納入率の向上に努めなければならない旨報告された。学会誌編集の予算が増加しているのは、投稿論文数の増加を見込み、紙・印刷代等が増えることを考慮したことが理由である旨、会費の値上げを検討している旨が報告され、承認された。

4) 定款の変更

第41条2 記名押印方法について：資料4

理事会議事録について、現在の定款では出席理事全員の記名押印が必要であった。オンラインで会議をしても記名押印が必要で、郵送等で書類をやりとりすることになってきたことから、業務が煩雑になっていたことが説明された。なお、このような方法でも一般社団法人の運営上問題がないことを、司法書士に確認していることが説明され、第41条2の変更について承認された。

5) 会員規程の変更：資料5

第3条（会費）について

これまで会費納入率が70%を超えることがなく、現状のままでは学会の維持が難しい状態になっている。なお、税理士に確認したところ赤字予算になっていること自体は問題がないが、改善のための取り組みをきちんと行うことが前提であると指摘されている。

そこで、入会金を廃止し、年会費を値上げすることを提案する旨説明された。

上記の説明を受け、以下の意見があった。

●実質2,000円の値上げでは現在の案の通り値上げをしても、納入率が現在のままであれば実質80万円程度の増額にしかならず、100万円を超える現在の予算上の赤字の改善にはつながらない。

●予算案の通り550人（80%）の会員が会費を納入すれば、100万円程度の増収となり、赤字分が補填される。

●最近に入会金が必要な学会が減っている。また入会時の負担は1,000円減少することから、入会しやすくなる可能性

はある。

●しかし、値上げに伴う会員数の減少のリスクもある。

●値上げをするなら、何をするための値上げなのかを会員に伝え、学会が発展することを知らせる必要がある。

●大規模な学会で年会費10,000円のところが多い中、同じ10,000円で聖路加看護学会に入ってくれるのか、これから入会する人にとっては負担になるのではないか。

●編集委員会の予算の割合が大きいの、学会誌作成が学会にとって重要な事業であることから投稿論文数の増加を望んでおり、事業の縮小を避けたいためである。

●学会誌が重要なことは理解しても、編集委員会の予算額が、全体の予算額の中で占める割合が大き過ぎる。投稿論文数増加への期待が大き過ぎるのではないか。

●編集委員会以外の委員会の予算を見ると、これで活動できるのかと疑問になるほど少額である。学会の定める各事業を展開するには厳しい金額になっている。

●聖路加という学校名の入った学会であることが、聖路加の卒業生や修了生以外の入会を阻んでいる。周囲の人に入会してもらいたいと思っても、聖路加の卒業/修了生でないといづらい。

以上の意見を受けて、以下の返答があった。

●会費の値上げについてはリスクもあるが、これまで理事会、評議員会で何度も議題に上がっては決断されることなく引き継がれてきた。

●ここ数年は赤字予算を組んでも、結果的に論文投稿数が少なく、学会誌制作費用が減額したり、学術大会や寄付金による収入があったことによって、最終的には赤字が回避されてきた。しかし、学会誌は本来は活性化してほしいことであり、学術大会や寄付金による収入を期待した予算を組むことはできない上、毎年期待すべき収入ではない。

●学会名の変更についても、数年前の「将来構想委員会」で検討がされたものの、学会名が聖路加であることから大学内の事務局室料や学会実施時の会場の使用料などが免除されている現状があり、そのメリットを捨てて名称を変更することは、現状では大変難しい。

さらに、会費増以外に収入を増やす方法として、以下のような提案があった。

●学術交流委員会主催研修会を有料にする。

●学術集会で発表するためだけに会員になってもよい一時会員制度の導入（発表の際、筆頭著者は会員である必要があるが、共同演者は安価な一時会員でよいという学会もある）。大きな収入増にはならないが、学術集会での発表者増につながる。

●学生会員制度の導入。ただし、会員管理が複雑になる可能性がある。

また、値上げを行ったとしても、会員にとってメリットがある学会になるための以下のような取り組みを検討する必要があるという意見があった。

●年会費納入率上昇のための取り組みを継続すること。

●短期間でさらに値上げをすることを避けること。

●学会誌の投稿論文ジャンルに「実践報告」を作ること。

●メーリングリストを作成し、学会より頻繁に発信すること。

●学術交流委員会主催イベントを活発にすること。

●年会費をコンビニエンスストアで支払えるようにすること。

以上のような話し合いを経て、学会の事業をきちんと行うためには、もう少しお金が必要であるということが共有された。検討された様々な取り組みを実施しながら、年会費は2019年度より提案の通り変更することが承認された。

なお、編集委員会より「実践報告」のジャンルの創設は検討済みであり、次回理事会で提案予定であることが追加で報告された。また、予算削減のために安価な紙を使うなどの工夫をすることなども考慮する旨、伝えられた。

6) 聖路加看護学会 COI 規程について：資料6-①②③

資料6に基づき、説明され、承認された。

提出された申告書の保管場所については、投稿論文、編集事務局（委託事業者：ワールドプランニング）、学術大会については学術大会事務局であることが確認された。また、現在編集委員会で使用している申告書は、本日決定した内容に変更されることが確認された。

7) 次期理事の選任：資料7

資料7に基づいて報告され、承認された。

5. 報告

1) 2018年度名誉会員について（学会への貢献について）

理事会にて、杉本正子氏を推薦することに決まった旨、報告された。

2) 第23回学術大会進捗報告

2018年度 第23回学術大会日程：2018年9月16日（日）
進捗は例年通り進んでいる。ただし、開催日が3連休の中日であり、事前登録者が少ない（28人）こと、演題締め切り期間が過ぎたが応募数が少ないため（8件）延長していることが伝えられた。評議員および周囲への学術大会への参加、演題発表への協力が強く求められた。

3) 2019年度 評議員選挙について：資料8

資料8について報告された。

その他

<看保連会費値上げについて>

看保連の会費が上がることになった。ただし、金額は会員数に応じた段階別であり、本学会の会費は据え置きである。

以上

【配布資料】

資料1：2017年度事業報告

資料2-①：2017年度決算報告書

資料2-②：2017年度監査報告書

資料3-①：2018年度事業計画

資料3-②：2018年度予算書

資料4：定款変更案

資料5：会員規程変更案

資料6-①：聖路加看護学会 COI 指針

資料6-②：COI 申告書様式 1, 2, 3

資料6-③：学会発表時 COI 申告例（PPT）

資料7：理事選挙結果について（報告）

資料8：評議員選挙までのスケジュール